

敬和学園大学と地域社会を結ぶコミュニケーション誌

KEIWA

COLLEGE REPORT

第12号

⟨AUGUST 1997⟩

発行/敬和学園大学広報委員会



CLOSE UP **ゴガク漂流記** 孫野義夫

学生レポート〈留学編〉 桐生美穂・小林ゆか

アイオワ州の客人たち／新任教員自己紹介

学長室だより／体育館トレーニング機器導入



体育館の新築工事が順調に進み、全容がはっきりするまでになりました。新々バイパスから良く見えることから、「敬和さん、立派な体育館ですね。」と声をかけられます。10月末完成を目指しており、11月8・9日に開催予定の「敬和祭」には、こけら落としの意味もあり、学生は今までにない大きなイベントを計画しております。その際には卒業生諸君も、市民の皆さんもどうぞご遠慮なくお出かけください。

写真は、7月25日に撮影したものです。



もくじ

ゴガク漂流記… 孫野義夫	1	保護者懇談会予告	10
【テーマ】中国社会における茶道の果す役割 桐生 美穂	4	体育館のこけら落としと学園祭	10
Dear 片桐先生 小林ゆか	5	寄付者名簿	10
アイオワ州の客人たち	6	学長室だより	11
新任教員自己紹介 (福王 守、矢嶋直樹、 キャメロン・クロウフォード、伊藤恵子)	8	体育館トレーニングジム機器導入	12
		学内LAN使用開始	13

CLOSE UP

「」ガク漂流記

教授孫野義夫

語学は誤学であるという声明に出会ったのは、昔のことである。わたしが読んだのは、渡辺一夫「フランス語学ノオト」で、1950年の初版本。もともと、氏の説はさらに遠い戦前の雑誌に発表されている。主旨は、旧制高等学校での外国語の時間といふものは、その言語を使って後に何かの役に立てる手だてであって、その勉強じたいは学問などと呼べる代物ではないというところにあった。これはこれで、まずは妥当としなければならない。いま、気取つて本稿にとりくんでいる人物（次からは某氏と略す）も、外国语を習つたり教えたりすることを学問などと思ったことは、ほとんどないからである。あわてて付けくわえるが、某氏は大学生時代、比較史的言語学を中心とする言語学を専攻した。以下は、いろいろな外国语への漂流の思い出とでもしていただきたい。

漂流といつても、スゴロクの上りがりのよう、いちおう目的地はあった。若かりし日の某氏は大学に進むまえに、ひそかに世界の演劇史をたどつてみたいと思っていた。あることから、ブレロマンチズムを専門とするイギリス文学の研究者、K先生の弟子にしていただいた。その、ひたすら英語

を読むための個人授業のテキストは、Sheldon Cheney: 'The Theatre'。写真、イラストがたくさん散りばめられていた。弟子はイギリスらしい分厚い装丁のこの書物で、好きなものを英語で読む至福をはじめて味わつた。西洋古典劇、中世宗教劇、コメディア・デラルテ、ルネッサンス演劇。これだけで珍しく楽しいというのに、インド、アメリカ、アジア太平洋地域、中国の京劇、日本の能などと、世界の演劇が英語の活字の奥で踊っていた。こちらからの質問にすばやく、きっぱりと応じてくださる合間に、「これで、ギリシア・ラテン語や、イタリア語がすこしでも読めたら、いいね」こんな言葉をなんど口にされたことか。「いろんな外国语が曲がりなりにも読めるようになると、もっと面白くなるね」とも。

K先生は平然と「まだ間があるよね」。

これがきっかけで、この師から学んだ経験は、必要とあらば、辞書を片手にその外国语をなんとか読みはじめるようになるには、そんなに時間がかかるないとということであった。といっても、サラサラとでなく、たどたど読み始める程度であるが。これを外國語の短期即席独学とでも呼んでみた。もちろん、自分の得意とする分野のものを読むとなると、それこそ予想外の加速がじゅうぶんに期待できるはずである。敬和学園国語は「科目が求められた。記憶に譲りがなければ、英、独、仏、伊、露、西（スペ

イン語）それに支（中国語）がその選択範囲だった。会場の机の上に、某氏の場合は、英独とかかれた紙切れがおかれていた。ふと見かけた近くのそれは、中国語とフランス語の組合せで、『恰好がエエな』と、うらやましく感じた。ゴム印で大急ぎで一を二と修正してあったところから判断すると、その年が二ヶ国語の入試制度の初年度だったようである。予想もしない事態に、それも秋が深くなつてから知った某氏は、息をのんだ。旧制だからみなみにドイツ語もかじってはいたが、まさか外国语が二科目とは。

夫

姿を見るとき、この感は深く、頼もしい。

CLOSE UP

そのころの言語学科では、比較言語学が中心であるから比較の対象になるさまざまの二言語は別枠で、三年間に十科目の、外国語あるいは文学の単位をとることになった。すでに、外国语へのアレルギーはいた。旅支度はできていると自分に言いきかせた。とりあえず、フランス語、フランス文学、イタリア語、イタリア文学、スペイン語、ラテン語、中国文学と並べたててみた。中国文学史は、現代中国語は知らないが、とぼしい漢文の知識でともかく理解できていった、ようである。そこでの収穫は、中国語の声調が文学として心にしみるものであると、はじめて知ったことである。それだけではない。この講義はわたしの文學觀を大きく転換させて今にいたっている。これには三年間にわたって聴講した、屈指の中国文学者、吉川幸次郎教授の影響による。しかし、某氏と同期の西田龍雄のそれも、前者に劣るものではなかった。たとえば、中国語の言語学的権威がスウェーデンの学者であることなどを教わった。かれどは、大学のすべての外国语の講義を覗いてみようということになった。蒙古語とパリ語が記憶に残っている。まずは、蒙古語。わたしの古里の街に二十一日のお大師さんで知られる真言宗の中心的なお寺があつた。中学二年の夏休みに友人に連れられて、そこに出入りするようになった。寺の長男、次男それに縁づきの年上のもう一人の中学生までが、いまとなつては動機を知るよ

しもないが、そろつて蒙古語の勉強ができる上級の学校に進みたいという希望をもつていた。そして、わたしが独り稽古をするための英語の文法書をくれたのは、その一建物での蒙古語の講義に出かけるには、すぐならず夢があった。そしてわたしのが、ひやかしの段階に留まつたのにたいして、西田はチベットへの憧れから言語学にやってきただけあって、蒙古語にもそのまま突き進んでいった。この大学でちょっと覗いてみた蒙古語の講師が、司馬遼太郎や西田龍雄の高校時代の先生であることを知ったのは、だいぶ後のことである。つぎは、ペーリ語（中期インド語）である。もちろん当時のことでの教科書は市販のものはない。最初の時間に二人とも拌借したのはいいが、すぐ挫折しそうで、文学部随一のダンディな講師にそれをお返しするのに苦労した。西田はこれから関西の大学での外国语を全部訪ねてみると口にしたが、今にしておもえば、西夏語の解説などを含めて、現在のアジア比較言語学の第一人者ならではの志を、すでに実行に移していくにちがいない。

ことのついでに言語学への誤解を解いておきたい。もと博言学と呼ばれていたため西田の名言を借りれば「惜しみなく忘れる」が鉄則である。

フランス語は、比較言語学はもちろん、言語学の文献を読むさいには、英語などどちらがって、欠かせないものであった。例の即席独学はもちろん開始した。大学でのフランス語の時間は横目みて、大学前の日

しもないが、そろつて蒙古語の勉強ができる上級の学校に進みたいという希望をもつていた。あとの方は、坊さんが急に本国に帰つたため「二ヶ月ほどで中断した。日記の建物での蒙古語の講義に出かけるには、すぐならず夢があった。そしてわたしのが、ひやかしの段階に留まつたのにたいして、西田はチベットへの憧れから言語学にやってきただけあって、蒙古語にもそのまま突き進んでいた。この大学でちょっと覗いてみた蒙古語の講師が、司馬遼太郎や西田龍雄の高校時代の先生であることを知ったのは、だいぶ後のことである。つぎは、ペーリ語（中期インド語）である。もちろん当時のことでの教科書は市販のものはない。最初の時間に二人とも拌借したのはいいが、すぐ挫折しそうで、文学部随一のダンディな講師にそれをお返しするのに苦労した。西田はこれから関西の大学での外国语を全部訪ねてみると口にしたが、今にしておもえば、西夏語の解説などを含めて、現在のアジア比較言語学の第一人者ならではの志を、すでに実行に移していくにちがいない。ことのついでに言語学への誤解を解いておきたい。もと博言学と呼ばれていたため西田の名言を借りれば「惜しみなく忘れる」が鉄則である。

フランス語は、比較言語学のつもりが長引いて、ラテン語は短期独学のつもりが長引いて、その後もいろいろらしているうちに、泉井久之助「ラテン広文典」ができた。日本語でかかれた最もすぐれた外国语の文法書である。某氏はそれを言語学の書物としても読ませてもらった。きびしい、ありがたい先生であつた。

ギリシア語のほうは、泉井先生のアリス

CLOSE UP

トテレス「詩学」の講読に出席するためにも必要で、ラテン語とおなじく適當な文典をみつけるのに四苦八苦した。あるときなどは、日本語でかかれたギリシア語の文典を手にいれたはいいが、その目次が名詞の項でおわっていた。ギリシア文学史にも出席していたが、月曜八時からの講義で、つねに学生は、二、三名にとどまつた。アナクレオンについてのレポートで英語の文献をつかつたが、なんなく里帰りに似た心境で、ほつとした。哲学科の田中美知太郎の講義が古典ギリシア語をきびしく磨いてくれるという有名な風聞があつた。敬遠した。ギリシア哲学のためのギリシア語を志していなかつたらで、他意はない。かつての氏の「芸芸春秋」巻頭言あたりが某氏には手ごろである。

おなじ時期に大学に入った理論物理学の友人と立ち話をした。「理学部は毎朝エライ早起きやな。なんでや」「はよ花かんと、けさ届いた物理の専門誌、先取りされてしまふんや」「英語だけか」「いや、フランス語、ドイツ語ほか、いろいろや」「そんなんにヨウケ外国语、読めるんかい」「専門の論文やもん。単語はおんなじや」。湯川秀樹教室の雰囲気が伝わってきた。

語彙となると、辞書のことにも触れないわけにはいかない。これも実際にあつた話を書く。イタリア語を勉強することになつて、のちに中世からルネッサンスにかけてのフランス語を専門とすることになる友人と、戦後の街にイタリア語の字引を搜しにでかけた。河原町通りの丸太町寄りに、ガラス張りの一枚戸の入口をもつ古い店があつた。もともと何の商売をしているのか分か

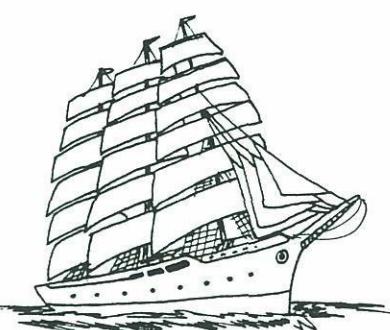
らない。入りづらい店先から、うすぐらい内部を覗くと書棚が連なつてゐる。二人で思つて入つた。洋書がずらり。大部の辞書が目についた。蒙(古語)露(西亞語)辞典であった。ずっと見回しているとイタリア語の字引が、アル。見返しに、びつくりするような少額の値段が記されていた。

奥から年配の外国人が出てきた。びくびくしながら「これ、下さい」。しばらく沈黙があつて「こんな値段で買えると思ひますか」という返事がきた。一人で逃げだした。

あとで、その金額の何十倍はする辞書を別に古書店でやつと見つけた。いずれにしても、それは謎につつまれた経験である。のちに新聞に、この白系ロシア人の店主が、法隆寺の焼けた壁画の修復に多額の淨財を寄付したとの記事が出た。ロシア語は大

学の二度目の夏に、古里の大学の若いロシア語の講師に教わつた。一回ビール一本という条件で。夏休みの終わりにチエーホフ「桜の園」の一部を読んだ。世界演劇史への壮大な幻想は消えていたが、K先生には報告できた。

さきに触れたが、ポルトガル語は一時間ほど習つた。それから十年である。とつぜん、ブラジルの市長から新潟県のある市長のもとに横文字の手紙が届いて、それを速成で翻訳してくれと頼まれた。しかも三日間ほどでとのこと。引き受けさせられた。辞書がない。新潟大学医学部の辞書だけを置いた部屋に直行。かろうじて、ちっぽけな葡日の字引を借りた。好運にも、古町の書店でポルトガル語文典を買った。差出人と受取人の関係を聞いて大体の見当をつけたのち、翻訳に着手。いちおうは恥をかか



【テーマ】中国社会における茶道の果たす役割

天津商科大学裏千家茶道短期大学留学生（1996年4月～1997年3月中国留学）

桐生美穂

「お点前頂戴します」右も左もわからな
いまま初めて茶室に入った時に私は、緊張
のあまり茶の味さえも覚えていないほどだっ
た。深くて、またやわらかくもある未知な
この飲料。たった一杯の茶から人と人との
心をつなぐ事が出来る。その時々の交わ
り、ムードで茶の味というのは一味も一味
も変わってゆく。茶道とはいいたい何な
だろうか？ 茶道は宗教にも似ている。こ
れが私の第一印象だった。岡倉天心の「茶
の本」によれば、「茶道とは日常生活の俗
事の中に見出される美しきものを崇拜する
ことに基づく一種の儀式である」と記され
ている。言葉も習慣も文化も違う異国の中で
茶会を開き、茶道を通して中国の学生たち
が交流する場をもつことができる。立派
な文化国際化である。

茶はまず薬として遣唐使によって伝來し
て来た。後に趣味、娯楽へと発展し、茶は
疲れをいやしたり、気分を爽快にしたりと、
今では毎日の生活に欠かせないものとなっ
ている。日本人は外来文化を吸収し、自國
のものにするのが上手な国民であるし、ま
た自國を顧みることの出来る国民である。

「日本の文化はどういうのですか？」
と外国人に聞かれた時、それを一言で説明
するのは難しい。それくらい日本文化は奥
が深く繊細であると思う。けれど、いつも
きちんと答える返せる日本人でありたいと
私は思う。

一般的に外国人が日本に対して抱くイメー
ジとしてあげられるのはフジヤマ、ゲイシャ、
サムライ、ハイテクなど。中国では過去に
日本の侵略という戦争があつたために、い
まだその傷痕は深く対日感情も拭いきれな
い部分もあるだろうし、今でも偏見と誤解
もある。文化より悪いイメージが根強く残っ
ているのが現状である。

また、中国で有名な日本人映画俳優高倉
健は日本人を象徴していると思う。無口で
しゃべらない、だからわかりにくい。

わかりにくいものをどのようにしたらわ
かりやすく伝えることができるだろうか。
それは難しくないと思う。文化が国境を超
えること、お互いが仲良くしあい、敬い合
い、心を清らかにする。利休が唱えた「和
敬 静 寂」こそ忘れてはならない精神であり、
今一度重要な交流である。人間は何を見て、
何を美しいと感じるか、人それぞれ違う。
日本のようにせわしなく情報が流れ、早く
回転している世の中では、自ら見つめ直すこ
とを忘れてしまった時、この空間が必要と
なる。

自然と共に流れ人間はいかに生きるべき
か。これは永遠の課題だと思う。中国が發
展すると共に、茶道の茶室のような空間を
必要とする日が来るかもしれない。中国の
大地に茶は新たな形で里帰りし、茶道は生
活を向上させる重要な役割を果たせること
を、未来に期待している。

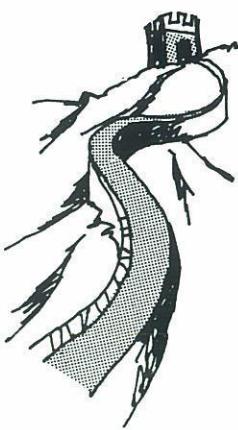
桐生美穂さんは、末っ子特有の甘えん坊
という面がないでもないが、それはむしろ
見かけである。大学生活にも、自分の「持
続する志」が貫かれていたようである。中
國語の学習と日本・アジアの文化交流とい
う主題の追求がキーワードである。

卒論では「アジア映画に見る日本人像」
なるテーマをえらび、おかげで審査のため
いくつかのアジア映画のビデオ・テープを
見るなどキリキリ舞いさせられたのもその
余波であった。

今回、一年間の裏千家茶道短大（天津）
の中国語学習から帰っての一文を見て、改
めて「志に持続」を確認させられた。

今度は茶道という伝統文化に日中文化の
交流点を求めている。文化の多様性、相対
性の名の下にわれわれの生活が伝統の水脈
から急速に切り離されつつあることを思え
ば、今度の課題はこれまでより一層野心的
であると言つても過言ではないであろう。

〔指導教授 浅野幸穂〕



11. May, 1997

AVON RIVER, Christchurch,
New Zealand.

Address 213 Bower Ave.
North Beach Christchurch
New Zealand

Dear 片桐先生

お元気ですか。New Zealandに来てからもうすぐで一ヶ月になります。学校が始まるまでの間は何をすることがなく毎日その時間どのように過ごして良いか分からず、ただ暇を持て余していました。今は学校も始まり以前よりは急しくなりました。学校にはたくさん日本人がいますが幸い私のクラスは日本人が少ないので英語を勉強するにはとても良い環境です。私のHart familyは老夫婦で毎日読書をしたり散歩に行ったりして過ごしています。とても優しい人達なのでこちらでの生活は快適ですが、彼らの英語がN2訛りなので聞き取るのに少し苦労しますでもそのうち慣れてしまうでしょう。こちらは日に日に寒くなり、秋を通り越して冬がやって来そうです。風邪をひかないように気を付ければなりません。 Colour 先生も健康には暮らも気を付けて下さい。それではよろしければお便り下さい。 Yuka Kobayashi



片桐邦郎様

〒113 東京都文京区西片1-14-14

Japan



New Zealand.

CC 1308

〈補記〉学生の海外留学の相談をよく受けた。小林ゆかさんは、私のゼミの学生で、卒業後一年位海外留学をしたいという。治安がよくて近い国としてシンガポールとニュージーランドを推薦した。

英語を学ぶとしたら、いろいろ問題もあるだろう。ただ、国際語としての英語を、聴き話すことの体験を中心と考えた。

ニュージーランドは、日本からの直行便もあり、日本人にとって観光の国である。新婚旅行や現地の教会で挙式をする若者も多い。また、ウォーカライ（戦の前に環になつて踊る原住民の踊を真似たダンス）で有名な黒いソックスのラグビーのチームでも有名である。しかし、何よりもこの国は世界にさきがけて19世紀の末に婦人参政権を施行した国であり、それ以前に義務教育の無償化、児童や婦人の8時間労働制定、福祉活動の充実等近代国家建設の先駆性で有名な国である。

この国やオーストラリアでは、本屋で南北逆の世界地図を売っている。勿論、単なる遊びの地図だが、自分達の国が世界地図で上と云いたいのである。しかも、ニュージーランド製の地図には、オーストラリアの国名の下には English Spoken があるが、自分の国にはイギリス本土と同じで Queen's English Spoken とある。この葉書にあるようにニュージーランド訛りがあることは事実なのだが、それ以上に誇りもあるのだ。8月にかけて真冬になる南半球の世界の体験も面白いと思う。元気で留学生活を送るよう返事を書いた。

〔指導教授 片桐邦郎〕

アイオワ州の客人たち

北垣宗治

この6月の初めにはアイオワ州にある敬和学園大学の姉妹校ノースウェスタン大学から二人の客人が、また6月下旬にはノースウェスタン大学の所在地であり、新発田市の姉妹市であるオレンジ・シティから別の二人の客人が新発田市と本学を訪れた。このような往来がしきりになされることは、本学の、そして新発田市の国際性の一端を示すものであり、しかもその状況が起こったのは本学がこの地に根をおろしたからであるという事実を思い起したいのである。

第一陣は、本学ではすでに顔馴染みであり、本学の名誉学位の受領者であるノースウェスタン大学のライル・ヴァンダウエルフ教授と、教授の指導のもとに国際プログラムの担当を始めた新人マイケル・グローエンMichael Groen氏である。六月二日、二人は本学において、この夏のサマー・インスティチュート参加希望の五人の学生に会って十分な事前指導を行い、またこれまで同じプログラムに参加した在学生たちと懇談した。お一人はその日の夕方には市内の「一ノ瀬」で開催されたオレンジ会の総会に臨み、ヴァンダウエルフ教授が短い講演をし、延原時行教授が通訳した。そのあ

と懇親会に移り、とくにオレンジ・シティを訪問したことのある市民たちには互いに旧交を暖める愉快なひと時であった。

今回の訪問は比較的時間の余裕があり、お二人は土曜日には市役所の平田氏や阿部氏のご案内で、笹川流れを訪れ、海釣りを楽しんだ。

ヴァンダウエルフ教授はフグを釣ったそうだが、フグの猛毒を恐れて、さっそく海に返したといふ。また午後には阿賀野川を舟で下り、アイオワ州の西部を流れるミズーリ川や、東部を流れミシシッピー川ではとても味わえない情緒を味わった。その帰りには月岡温泉のホテル泉慶に立ち寄り、日本の温泉地の大ホテルの規模と壮麗さに驚嘆した。温泉でひと風呂浴びませんか、とすすめたけれど、この次の機会にしますと、遠慮されたそうである。

ノースウェスタン大学にはこの一年間、本学の卒業生の小山美弥子（二年目）、平野順也、

神田さおりの三君が留学しており、三人ともとてもよく勉強したとヴァンダウエルフ先生はほめていた。小山さんが留学生たちの考え方について書いたレポートは非常によく書いていたので、現地の新聞に写真入りで掲載された。（その切りぬきは聖籠館の掲示板に貼つてあるので、参照されたい）。神田さんはいま一時帰国中で、新潟で、敬和学園高校から留学していた二人と一緒に二人の先生と嬉しい再会をした。ヴァンダウエルフ教授は新潟出身のいま一人の滞米中の留学生の実家を訪れた。彼は才能豊かで、非常に勉強家で、最近ついに洗礼を受ける決意をしたという。洗礼を受けるとは



6月2日 オレンジ会主催 ヴァンダウエルフ教授歓迎会

どういうことであるかについて疑問をもつておられるご両親に、自分の口から説明したいという熱意に負けて、私はこの訪問のときの通訳を受けた。教授はまず立派なご子息を自分の大学に送つてもらったことを感謝し、彼がいかによく勉強しているかを伝え、そして洗礼の意味について誠心誠意説明した。辞去するまえに、短い、感動的な祈りをささげたのだった。こうして、お二人の新発田・新潟訪問はきわめて実り豊かなものとなった。

アイオワ州からの第二陣はオレンジ・シティのヴァンダストウープ

市長と、同市の行政担当部長スカーフ氏の二人で、二人とも一昨年の新発田市とオレンジ・シティとの間の姉妹都市締結のときに新発田を訪問した人たちである。今回は新発田市の市制施行五十周年記念式典（六月二十四日）と、第四回花いっぱい世界大会、第四十回全国大会（六月二十五日）に出席するために来日した。

二十四日の式典には新発田市の韓国における友好都市である議政府市の市長と、オレンジ・シティのヴァンダストウープ市長がそれぞれ短い記念講演をした。ヴァンダストウープ市長は二十一世紀における国際交流の在り方について、示唆に富む提案を行なった。

昨年の秋に、新発田市役所



6月23日 オレンジ・シティのヴァンダストウープ市長が、学長室を訪問

の平田氏は一週間以上にわたってオレンジ・シティの市役所に派遣され、アメリカの市役所がどのように運営されるかをつぶさに見学し、研修してきた。市議会が開かれた時には、市長の横に座つて、議員と市長とのやりとりを聞いたという。姉妹都市とのことは、そういうことを可能にさせる利点をもっている。

スカーフ氏はこの訪問を最後に、行政担当の仕事を引退するそうで、この旅行は氏にとって一種の花道となつたといえるかもしれない。六月二十三日にはオレンジ会主催

の、ヴァンダストウープ氏とスカーフ氏の歓迎会が北辰館で開かれた。本学の藤倉庄平事務局長は昨年の五月に何人かの新発田市民とともにオレンジ・シティを訪問しており、今回もオレンジ会開催については背後にあって中心的な役割を果たしてきた。

近市長によると、今年の秋に、新発田市はオレンジ・シティ訪問団を市役所、市議員、市民、敬和学園大学から募り、一段と交流を深めることにする予定である。ヴァンダストウープ市長は、ぜひ市議会の行なわれる日に来てみてほしいと、注文をつけている。

この機会にオレンジ会のことを一言説明して拙文を結びたい。それは元来、オレンジ・シティを訪問した市民たちの任意的な親睦団体だったが、ただ親睦するだけでは惜しいので、敬和学園大学の後援をするという重要な目的が加わった。オレンジ会は今では新発田の日韓友好協会、日中友好協会、モンゴル協会とならび、「日米友好協会」の役割をも果たしている。ちなみにオレンジ会の会長は、新発田市農業市北蒲原郡医師会会長の富樫益郎先生であり、幹事長は新昌工業専務取締役の渡辺勝氏である。二人は一九九二年夏に、近寅彦市長や数名の市会議員や私とともに、オレンジ・シティとノースウエスタン大学を訪れたのであった。この姉妹都市関係が続く限り、オレンジ会はますます有意義な会として発展するであろう。

新任教員 自己紹介

◆福王　　守

(専任講師)



はじめまして。この

度敬和学園大学に専任

講師(国際法・国際機
構論・法学(憲法担当))
として赴任しました福
王です。敬和学園に赴

任するまでは、20年以上東京都国立市に住
んでいました。国立は東京都の西部に属し
ており、銀杏と桜並木の美しい学園町です。
特に駅前の大通りは東京百景としても知ら
れており、お花見と紅葉の時期には近隣の
市から多くの人が訪れます。幼少の頃の
私は多摩川で釣りをしたり、松林の残る近
所の大学のキャンパスの中で野球や虫取り

をしたりして過ごしました。当時の国立にはまだ武蔵野の面影が色濃く残されており、
のんびりとしていたように思います。ところが最近はどういうわけか知名度が高くな
り、背の高いビルがどんどん建設されています。三角屋根の駅舎もだんだんとか
んで見えなくなってきたという状態です。

こうしたのんびりした性格がたたってか、
私は2浪の末ようやく私立大学の法学部に
入学することができます。思い出は余り
にも多過ぎて書ききれません。ここではゼ
ミの話にとどめたいと思います。私は特に
教養ゼミ(2年次)では哲学を、専門ゼミ
(3年次)では日本国憲法を受講しました。
法学部でなぜ哲学のゼミを受講したかとい
うと、法というメガネですべての社会を分
析していくことに対する多少疑問を持っ
たからです。一方、専門ゼミでは日本国憲
法の判例研究を通じて、ゼミ論文の提出を
目指しました。論文のテーマは「裁判の公
開を知る権利」でした。基本的個人権の尊重
を柱にしつつ、当時問題になっていた傍聴
メモ訴訟などを検討素材としながら、司法
機関の審理の透明化を訴えたものです。た
だし、ゼミを通じても在学中は将来の自分
自身についてはまだ漠然としたイメージし
か持つことができない状態でした。

そして卒業後、民間企業で働きながらよ
うやく何が自分にできないのかわかつてき
ました。その一方で十分にはできなくても
これだけは追いかけいきたいというもの
も少しずつわかってきました。その経緯を
ここで上手にはお話できませんが……。い
ずれにせよ、その時から将来の目標を教職

に定めながら今日に至りました。

さて、現在の私の研究テーマは、「法の
一般原則」の問題を中心にして国際法の法
源の問題を取り扱うことです。国際法とは
主に国家間関係を規律する法規範の総体で
あるといわれ、通説的には条約と国際慣習
法であるといわれています。しかし激動す
る現代社会のあらゆる事象を法的に規律す
ることは不可能です。したがって、裁判不
能を避けるための本原則について研究しな
がら、国際法の実務と理論の境目の問題を
考えていく所存です。また今年度のゼミの
テーマは「紛争の平和的解決」です。新聞
などを参考にして、今日的な国際問題につ
いて法的な観点から構造的に分析し主眼と
していきます。そしてここでの受講生が2年間
の間にゼミ論文が書けるようにアドバイス
をしていく予定です。

最後に、今のところ趣味は魚釣り、音楽
鑑賞、ギターを弾くことなどです。はなは
だ未熟ではありますが、どうぞよろしくお
願いします。

◆矢嶋　直規

(専任講師)



私は本年度から人間

学、倫理思想史、環境

倫理学を担当します。

ほとんどの皆さんにとっ

て、倫理学は余り馴染

みの無い学問ではない
かとおもわれますので、少し倫理学とは何

かについて考えてみたいと思います。倫理学は、形而上学、美学とともに伝統的に哲学の一分野として位置付けられています。「善く生きること」は人間として生きる限り誰もが避けることのできない根本的な課題といえるでしょう。私達はだれも何事かを行うというしかたで人生を歩んでいます。そこではまず第一にどのような行為を選択するかがすべての人々にとって普遍的な問題となります。行為の選択は無原則になされるのでなく、何等かの目的のために行われるものです。選択されるのも目的が有意義なものであるのは、それが何等かの善さを実現するからといえるでしょう。そこで善とは何かが問われるので、様々な種類の善さが考えられます。共同体において行為する存在者としての人間に則しては、何よりも道徳的善が課題となります。この課題は人間である限りすべての人間を拘束する普遍的な課題といえますから、究極的なものを扱う学としての哲学の主題です。言い換えれば、人間は本質的に道徳的存在であり、道徳的に善く生きることは人生の究極的な制約なのです。倫理学は、道徳や道徳判断の本質を構成する原理が、人間のいかなる能力に基づき付けるのかを探求します。道徳は社会を形成する原理でもあります。古来、大哲学者と呼ばれる人達は多く、こうした道徳についての総合的な理論を提示してきました。環境倫理学を含め、現代倫理学とは、それらの哲学者に学び、彼らとの理論的対決を通して現代に固有の課題に答えようとするいとなみといえるでしょう。私自身は現在、特にカントやヒューリムの道徳哲学に関心を持っています。皆さ

んには授業を通して倫理学のおもしろさを学んでもらいたいと願っていますし、文化論演習では、皆さんと共同研究を行うことができる楽しみにしています。

◆キヤメロン・クロウフォード



私は、自分のことをはっきりした行先のない旅人であると言えるのではないかと思います。新しい場所を発見したり、新しい地域に入り込んでその奥行きを知るという経験が私は好きです。

私が育ったのは「移動住宅(mobile home)」と呼ばれるトレイラーです。父の仕事でワシントン州やオレゴン州の小さな町を転々としました。私たちの家には車輪がついており、新しい土地へ家ごと引っ張って行ったのです。そうしているうちに私は新しく町や学校で育つことを覚えました。

なじみの薄いさまざまな環境の中で、私は今でも成長しているように思います。私が教育を受けた人類学と言語学という分野にも、自分の生まれ育ったものとは違う土地や文化を知りたいという私の欲求が表わされているようです。私は旅をして、世界各地から来た人々と接することができる職業に就けたことを幸運に思います。私がドイツやスペイン、日本、メキシコ、その他の

国で過ごしてきた時間は私の人生を豊かにしてくれました。

しかし、年をとつてみると、これまでのよくな「動く(mobile)」家よりも落ち

ビーナと私は最近家を買いましたが、これを私たちの永久の住処とする樂しみにしています。といっても私たちのどちらも新しいものを発見したいという欲求を捨てたわけではありません。妻も私も新発田の地に住み、働く機会が与えられたことをとても嬉しく思っています。約二ヶ月前に着任してから、私は見知らぬ、しかしども暖かい土地を旅する喜びを今一度味わっております。あと一歩か二歩で道に迷いそうになりながらも、この土地、文化の中で自分の道をなんとか辿るということを通して、目を大きく見開いて歩くことを思い出しました。結局それが私の最もはっきりとした行先であったのだと思います。

◆伊藤 恵子



「日本語教師です」

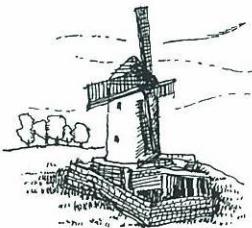
職業を聞かれてこう答えると、まだまだ多くの人に怪訝な顔をされます。誰に何を教えるのか。ピンとこないのでしょう。私自身も20年前に大学を卒業した

頃、そんな仕事があることを知りませんで

したが、ドイツの大学の日独翻訳ゼミで初めてドイツ人とともに日本語を外国語として見て、大変興味をもち、帰国後日本語教師になりました。この職業のおかげで、日本にいながらにして世界各国の人々に会うことができました。特に、それまで関心の薄かったアジアの人々と文化を知る機会がもてたのは、嬉しいことでした。

また、日本語学校の就学生、短期留学の中・高・大学生、ビジネスマン、主婦、ジャーナリスト、大学教員、ベトナム難民、技術研修生、中国帰國者、アジアからの花嫁など様々なタイプの日本語学習者に接してきました。各々目標や学習方法は違いますが、日本文化という異文化に触れ、自国文科との差異にとまどいながらも少しずつ理解を深めていくという点は同じです。

大学で教えるのは初めてですが、日本語学校から大学へ就学生を送り出した経験をもとに、留学生の日本語力向上のために効果的な授業を心掛けるとともに、留学生が異文化の中で自己を再認識し、自國と日本の双方の文化をよりよく理解できるよう、手助けしたいと思います。日本語教育が、国境を越えて地球市民が連帯しなければ解決できない問題が多い時代を迎えて、橋渡しの役の人を育てる一助になることを願っています。



保護者懇談会

開催予告

体育館のごけら落し と学園祭

昨年開催いたしました敬和学園大学後援懇談会を開催することになりました。これは、就職活動を間近に控えた時期に、保護者の方々にも現状をご理解いただき、就職活動を有利に展開していくことを目的に開催されるものです。

ご存じのとおり、今年度から就職協定が

廃止になり、企業の内定が今までより二ヶ月早めの前倒し傾向になっている上、県内の後発の私立大学からも卒業生が生まれ、予断を許さない状況が来年度も続くことが考えられます。それらを踏まえ、当日第一部は、専門家から様々な問題をお話いただき、大学からは就職指導への取組について、担当者から説明させていただきます。また第二部では、大学の教員との懇談会を予定しており、授業や学生生活の様子について自由に質問していただきたいと思っております。

私からの訴えに答えて、前号以降にご寄付を頂いた卒業生は次の八名です。この中で三名は、二年連続でご寄付頂いていますことを特記致します。
(北垣宗治)

記

日時 一九九七年一〇月一五日(水)

場所 新潟東映ホテル 二階

一期生 小野澤武晴 新田和子 原田賢一
宮沢幹彦 小山美弥子 重松頼昌
小山朋子 伊藤宏之

寄付者ご芳名

体育館の新築工事が一〇月末の完成を目指して順調に進んでおります。トレーニング機器の発注も完了いたしました。学園祭は例年ですと一〇月中に開催しておりましたが、体育館にステージを設備したことから、竣工に合わせ、一一月八・九日の二日間に変更しての開催を予定しております。

開學以来、オレンジ・ホールに特設ステージを設置してメイン会場としておりましたが、大きなステージになることから、外部からの出演者も予定しておりますので、今まで以上の盛り上がりが期待されます。実行委員の学生たちは、夏休みを返上して準備を進めております。多くの方々のご来場をお待ちしております。

私からの訴えに答えて、前号以降にご寄付を頂いた卒業生は次の八名です。この中で三名は、二年連続でご寄付頂いていますことを特記致します。
(北垣宗治)

学長室だより

あつという間に前期が終わり、七月二十六日から待望の夏休みに入りました。七月二十八日（月）は暑い日でしたが、学内のボランティア・サークルの諸君が呼び掛けで、第三回キャンパス・クリーンアップ作戦が決行されました。約四十人の諸君が九時に集まり、箒や雑巾で教室や廊下を清掃し、窓ガラスを磨きました。おかげで、学内は見違えるように綺麗になりました。この特別の奉仕活動のために、わざわざ三人の卒業生（ボランティア・サークルのO.B.たち）が参加しましたが、大学生が自分の校舎を清掃するという、この希有のキャンペーンは敬和学園大学では三年目であり、これこそは敬和ならではのことと、私は誇りに思っています。

ボランティア・サークルの諸君はそれ以外にもめざましい活躍をしました。六月十九日には若林洋子さんが中心となって「イラン地震・北朝鮮食料危機救援チャリティー・バザー」をキャンパスのピロティで敢行し、約九万円の売り上げという成果を上げました。それに先立ち神戸の阪神淡路大地震のときにつながったNGOの救援実行委員会から、敬和学園大学と新潟教会に對して、北朝鮮の飢えている子供たちに救援米と衣類を送ろうという呼び掛けがあり、それに

呼応することができました。古米六十五トンが集まりましたが、その袋に「救援米」のラベルを貼る仕事もまたボランティア・サークルの諸君が引き受けました。神戸の委員会からは、北朝鮮まで救援物資を届ける代表の一人として、私に加わってほしいという要請がありましたが、学期の途中に十日間も大学を留守にすることはできませんでしたので、代わって妻の北垣景子がその役を引き受け、七月十五日、北朝鮮の貨客船万景峰号で新潟西港を出発、元山（ウォンサン）周辺の幼稚園、託児所、子供の病院等に物資が分配され、子供たちが日本のビスケットを食べるのを確かめました。平壌に届けたかったのですが、それを運ぶトラックがなく、また道路も劣悪で、ヘリコプターでなければとても運べないということがわかりました。景子は無事に任務をはたして七月二十五日に同じ船で帰国しました。北朝鮮では子供の三十五パーセントは飢えに瀕しているということです。

これを書いている今日はもう七月の末日です。今週は田中章介先生の「経済史」の集中講義が行なわれています。先生は通産省の第一線で永らく活躍してきた方で、第二次大戦「直後の混乱期から今日の豊かな経済大国を実現するまでの日本経済の発展と潮流をふりかえる」という興味深い内容であり、受講生たちは、暑さをものともせず、熱心に講義を聞いています。ふだんは必ずしも静かといえない新発田館三一番

教室も、田中先生の授業ではしんと静まつた雰囲気で、しかもあとで活発な質問も飛び出し、良い盛り上がりを見せていました。本学の「キリスト教と教育委員会」の編集により、敬和カレッジ・ブックレットの第三号「リベラル・アーツの挑戦」が七月に刊行されました。これは本学が恒例としている新入生歓迎公開学術講演のうち、一九九五年の荒井誠（恵泉女子学園大学長）先生の「学問と信仰」、一九九六年の大口邦雄（国際基督教大学前学長）先生の「大学とはなにか」という、二つの講演を収録しており、キリスト教主義大学でありつつ、リベラル・アーツ教育を強く指向する本学との教職員、学生にとって、きわめて示唆に富んだ内容です。興味のある人はハガキで申し込んで下さい。（頒価五百円）

延原時行教授は四月に『至誠心の神学－東西融合文明論の試み』（行路社、一千円）という野心的な本を出版されました。ここにその内容を説明するスペースがありますが、同志社の竹中正夫教授と国際基督教大学の古屋安雄教授が称賛される本です。次号に紹介が載る筈です。

私たちの呼び掛けに答えて沢山の卒業生諸君が一万円の寄付に応じて下さり、感動しています。この募金は二年目に入り、複数の方が二回目の寄付を寄せて下さいました。別の欄に、感謝を以てお名前を掲げさせて頂きました。それではどうか、お元気でよい夏をお過ごしください。

（北垣宗治）

体育館トレーニング ジム機器導入

体育館の二階にトレーニングルーム及び武道場を設けました。写真は導入予定機器です。

新発田の長い冬の期間も、機器を使用した筋力トレーニングを行

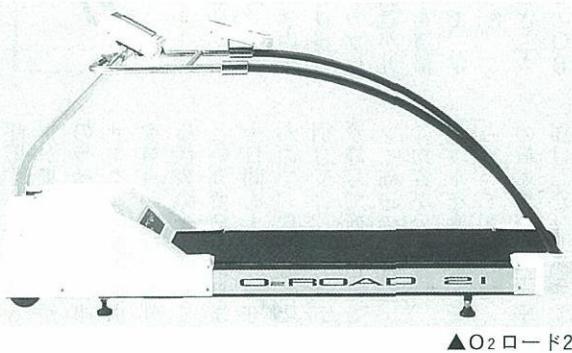
うことにより、一層の体力の向上ができると期待しています。
武道場には畳を敷きますが、多目的に使用できるようにしました。



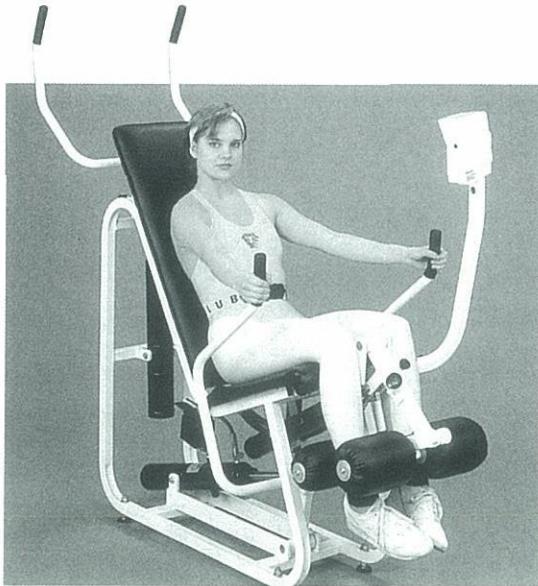
▲エアロバイク



▲パワーマックスV



▲O2 ロード21



▲トータルパワー

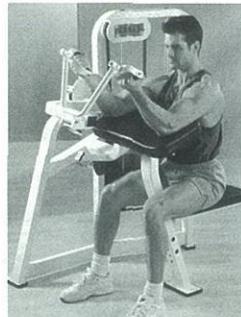


▲ラボードZ

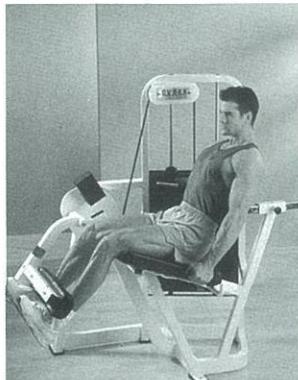
TRAINING MACHINE



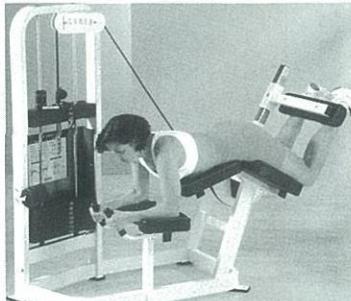
▲ローノリアデルト



▲アームカール



▲レッグエクステンション



▲プローンレッグカール



▲オーバーヘッドプレス



▲プルダウン



▲アームエクステンション



▲チエストプレス



▲シーテッドレッグプレス

ネットワーク委員会では昨年早々から学内 LAN の敷設を希望しておりました。これは、インターネットが普及して、全世界の情報が瞬時に入手できるようになり、しかもインターネット上で高度で正確な情報が一般に公開されるようになってきたことで、学生が社会に出て働く時に、インターネットの操作は必要不可欠な技能と考えるからです。

そこで、従来のようにコンピュータをパーソナルからネットワークへ使用形態を移行し、ネットワーキングテラシー（ネットワーク上の読み、書き、算盤）の教育に力を入れていきたいと思っております。

この設備の基本構想は、ネットワーク委員会がまとめ、事務職員も各種研修会に参加した結果、バックボーンには一〇〇メガガ光ファイバーを敷設し、図書館（研究棟）の各階基点にスイッチングHUBを設置し、各研究室には一〇〇メガ配線、事務室の基点から各係には一〇メガ配線、図書館の閲覧室はその特性から無線を利用することにいたしました。このため、図書館には学生への貸し出し用のノート型パソコンを四台配備しております。

今後、大教室にインターネットに接続したコンピュータを利用した授業ができるよう、大型プロジェクターの設置、学生へのインフォメーション、各種証明書の自動発行等、学内 LAN を最大限活用できるよう、ハード面の充実も検討しております。

学内
L
A
N
使
用
開
始

FROM CAMPUS

4月

- 5日 新入生歓迎公開学術講演会 約270名の参加
講師 佐竹 明(フェリス文学院大学長)
演題「大学での学びとキリスト教」
会場 新発田市生涯学習センター
- 6/5 新入生歓迎
公開学術講演会
- 
- 10日 前期講義開始 履修登録期間(～23日まで)
- 11日 チャペル・アッセンブリー・アワー
講師 北垣宗治学長 演題「弟子の足を洗うイエス」
- 15日 敬和学園大学後援会役員会
- 16日 授教会
- 18日 チャペル・アワー
講師 延原時行宗教部長「求めよ」
アッセンブリー・アワー
講師 菅野 浩国際文化学科長「大学生活について」
- 25日 チャペル・アワー
講師 延原時行宗教部長「共歡の宗教」
アッセンブリー・アワー
講師 松崎洋子英語英米文学科長「貧乏旅行の奨め」
- 28日 国際ソロブチミストから敬和学園大学ソサエティに15万円の助成金

5月

- 7日 授教会
- 8日 オレンジ会役員会
- 9日 チャペル・アワー 講師 延原時行宗教部長「究極的関心」
アッセンブリー・アワー 講師 渡野幸穂図書館長
「図書館へのいざないーどう読むか、どう調べるか」
- 13日 (仮称) 学園常務委員会
- 14・15日 公認会計士による会計監査
- 16日 チャペル・アワー
講師 延原時行宗教部長「逆転のあとずれ」
アッセンブリー・アワー
講師 本学第2回卒業生 坂爪直樹氏
「世界を身近に感じた日々」
- 23日 聖籠町議会議員総務文教委員会7名、職員3名視察
チャペル・アワー 講師 延原時行宗教部長「文明復興の力」
アッセンブリー・アワー
講師 整形外科医 斎藤信夫先生「指の呼び方」
- 29・30日 新入生オリエンテーション(胎内バーフホテル)
- 30日 学長主催ノースウェスタン大学
ヴァンダウエルフ教授一行歓迎会

6月

- 2日 オレンジ会総会、オレンジ会主催ヴァンダウエルフ教授一行歓迎会
- 4日 授教会

6/2 オレンジ会総会 ▶



キャンパス日誌

- 6日 チャペル・アッセンブリー・アワー
講師 新潟信濃町教会牧師 小淵康而理事「生きる意味を求めて」
- 9日 敬和学園大学後援会役員会
- 11日 敬和フォーラム 報告者 福王 守講師
- 12日 公開講座・聖籠町(初回) 講師 北垣宗治学長
「戦後の歴史と教育」
- 13日 チャペル・アワー
講師 延原時行宗教部長
「讃美の心」
アッセンブリー・アワー
B・クラート、J・ハーワード
ウ・ゴスペル・ライブ'97
「Two Tenors」
- 15日 公開講座・聖籠町
講師 古川登美子非常勤講師
「考えることを
教えない学校」
- 20日 チャペル・アッセンブリー・アワー
講師 山田耕太教授
「宮沢賢治とキリスト教」
- 23日 オレンジ会主催
オレンジ・シティ
市長一行歓迎会
- 26日 公開講座・聖籠町
講師 斎藤祐介助教授
「戦後日本政治の軌跡」
- 27日 チャペル・アワー
講師 延原時行宗教部長
「だから」は要らない
アッセンブリー・アワー
福祉体験学習事前学習会
- 28日 外国人留学生と出会いのつどい



▲北朝鮮チャリティーバザー



▲6/26 公開講座・聖籠町
斎藤祐介助教授

7月

- 2日 授教会
- 3日 公開講座・聖籠町 講師 角田三郎敬和学園高等学校校長
「神社神道がはじてきた役割」
- 4日 チャペル・アワー 講師 延原時行宗教部長「人間原理」
アッセンブリー・アワー 福祉体験学習事前学習会
- 10日 公開講座・聖籠町 講師 渡元マルチーヌ非常勤講師
「日本で親であること」
- 11日 チャペル・アワー 講師 北垣宗治学長
「敬和学園のはじまり」
アッセンブリー・アワー
ソウル舞鶴教会聖歌隊 音楽礼拝
- 17日 敬和学園大学後援会役員会
公開講座・聖籠町(最終回)
講師 上野恵美子教授 「子供と言語」